

類義語としてのカタカナ語・漢語の意味的相違

——「ケア」と「介護」の意味上の相違について——

陳 暁 静

要旨

本稿では、「中日新聞」2006年のデータを用い、「ケア」と「介護」の相違について検討し、両語の意味フレームを明らかにした。大きくは、「ケア」は医療的な面と精神的な面、美容面で用いられ、「介護」は医療的な面にのみ使用されているような傾向がある。また、医療面においては「ケア」は比較的新しく、精神、口腔ケアなどのような医療的な補助の治療法で、「介護」は治療自体ではない外側からの高齢者や動きが不自由の患者への生活のサポート及び医療制度面で使われていることがいえる。

1. はじめに

本稿で扱うカタカナ語¹⁾は欧米言語からの外来語をカタカナで表記する語を指す。カタカナ語は日本語の中で様々な役割を担い、外国の事物を表したり、オノマトペに用いられたりする。また、漢語・和語と類義関係を作ることも多く、そのニュアンスの相違が日本語学習者にとって難問の一つである。この意味的相違を「意味フレーム」の観点から明らかにするのが私の課題²⁾であり、本稿では「ケア」と「介護」について取り上げる。辞書の説明ではほぼ同じとされているが、例えば、「お年寄りのケア」、「お年寄りの介護」の二つは同じ解釈ができるか否か疑問がある。この疑問を抱き、本稿は「中日新聞」³⁾(2006年)のデータを用い、上の二語の相違を検討する。以下、「ケア」と「介護」のような意味的に類似している語を「ペア語」と呼ぶことにする。

近年、新聞においてはカタカナ語に対しての使用規制の動きがあり、関連するものとして国立国語研究所によって「『外来語』言い換え提案」が提唱されている⁴⁾。この提案は難解なカタカナ語が対象と思われ、本稿で取り上げるような日常生活で認知度が高いカタカナ語とは性格が違うと考えられるが、新しい動向として注意される。ただ、その場合も、規制や言いかえの動きが盛んになる以前の模様をとらえておくことも重要であろう。私の一連の研究において資料としてきた「中日新聞」の2000年代初頭のデータはこうした意味を持つものとする。また、2006年に「『外来語』言い換え提案」が公開されており、その時代と同じデータの分析により、この提案が現れる前の「カタカナ語」の使用の実態が窺える。さらに、「『外来語』言い換え提案」を公開することによって、今日に至るまでの変化の研究の参考資料としても重要である。

2. 研究方法

まず、「中日新聞」2006年全分野で「ケア」「介護」の用例を集め、それとの共起語からそれぞれの「意味フレーム」を探っていく。これら二語は、2006年に国立国語研究所が公開した『現代雑誌200万字言語調査語彙表』⁵⁾でカタカナ語で出現頻度が高い語であり、日常語として重要なものである。

「意味フレーム」とは、ある語と結びついた背景的世界知識のことである。いわゆる語の意味は一般に何らかの経験、認識、習慣を背景として理解されるものであるとされ、「話者は関連する様々な知識を前提として語を使い、聴者はその背景知識を喚起することによって理解する」と松本(2003:63)が述べている。即ち、語の意味の理解には、辞書の字義の意味だけではなく、使用する人々の経験、知識、習慣に支えられた背景面も考える必要がある。本稿は文脈の共起語からこうした母語話者の背景世界知識を考え、この類義語の意味の違いを検討する。

本稿で「共起語」というのは文脈の中で「ケア」と「介護」に深く関わりがある語のことを指す。そして、共起語を〈直前直後共起語〉と〈文中共起語〉に分け、これを手掛かりに分析を行う。直前直後共起語は、調査語の前後にある意味上、直接に結びついている語及び文節を指す。一方、文中共起語は主として同一文中、または同じ文脈にあり、間接的に調査語と意味的に関わるものを指す。

3. 先行研究

まず代表的な辞書の記述は次のようである。

A) ケア 注意すること。世話すること。介護すること。

B) 介護 病人や老人を、日常生活の身体的困難などに対して補助したり看護したりすること。

『日本国語大辞典』第2版 小学館

C) care ① helping sb ② keeping sth ③ in good condition ④ carefulness ⑤ take care of sb/sth

『ロングマン英英辞典』第5版 桐原書店

先行研究では、彭飛(2003:112)が「ケア」は特に最近では災害後、事故後の「心のケア」、介護の「ケア」という意味としてよく使われ、また、美容室などでは「髪の毛のケア」の表現がよく登場すると指摘している。彭飛氏は「ケア」と「手入れ」をペア語として研究をしている。筆者が確認したところは「手入れ」は近年美容関係以外あまり使用されなくなり、むしろ「ケア」と「介護」の方が関心が持たれている。したがって今回は「ケア」と「介護」を調査対象にした。もちろん「ケア」と「手入れ」「世話」「介抱」等のような類義語もあるが、ここでは最も意味が近い語から調査することにした。

以上を見ると、「ケア」は「介護」の意味と美容関係の「手入れ」という意味が含まれているのに対して、「介護」はそのような意味が含まれず、高齢者や病人などの介抱や生活をサポートするという意味で使用することが分かる。これらを参考にして、本論に入る。

4. 「ケア」と「介護」の意味分析

「中日新聞」において両語の使用総度数⁶⁾は「ケア」が1097回、「介護」がより多く3766回ある。この「ケア」と「介護」を〈直前直後共起語〉と〈文中共起語〉に分け、それぞれ表1と表2にまとめた。各表の左側に「ケア」と「介護」のそれぞれの共起語を、右端に共起語の類型を分けて記載した(共起語の意味によって〈場所〉〈組織〉〈経営〉〈職業/知識/能力〉〈病状/治療〉〈受ける人の身体的・生活的な面〉〈対象者〉〈種類〉〈設備/食品〉〈心理的/精神的〉〈美容〉〈実施する人の生活〉の12類に分ける)。各類型の掲載順はカタカナ語である「ケア」の出現の多い順である。

4.1 〈直前直後共起語〉から見た意味について

ここでは、〈直前直後共起語〉から見た「ケア」と「介護」の意味フレームを探る。まず、表1の全体を見ると次のようなことが言える。語種の面においては、「ケア」は「カタカナ語」(網掛けの部分)とも、「和語」「漢語」とも共起しているのに対して、「介護」は「カタカナ語」との共起が少なく(斜体の部分)、殆ど「和語」「漢語」との共起である。類型の分布には、「ケア」は〈制度〉〈設備/食品〉〈実施する側の状況〉の類型、「介護」は〈心理的〉〈美容〉の類型が欠けている。次に、表1の上から各類型順に詳しく考察する。

〈場所〉

表1の〈場所〉を見ると、「ケア」と「介護」は語種との結びつきが強く働いていることが分かる。例えば、「ケア」は「一ハウス」などとの共起が多く75回あり、「一施設」との共起は2回である。一方、「介護」は「一ハウス」などとの共起が見出せず、「一施設」との共起が163回ある。したがって施設名として用いられる時は語種の結びつきが強く効いていると考えられる。ほかの場合もこの傾向が多くある。

さらに、以上の共起語の中で「一施設」と「一センター」は「ケア」とも「介護」とも共起している。この場合の意味の違いはどうか。まず、下記の例(1)⁷⁾(2)で「一施設」について考えてみよう。例(1)の「ケア施設」は文の後部を見ると、対象者は「高齢者を中心に乳幼児、障害者」であることがわかる。それに対して(2)の「介護施設」の対象者は明らかに「高齢者ら」をのみ指している。

(1) 県として整備を促進してきた小規模ケア施設「コモンズハウス」の支援事業を拡大する。NPO法人などが高齢者を中心に乳幼児、障害者を少人数預かってケアする宅幼老所。

(3/1 朝刊 p.24)

(2) 駅周辺のほか、病院や介護施設など高齢者らの利用が多い施設のある地域を対象に、建物から道路、公園までバリアフリー化を一体的に推進するのが狙い。

(1/16 朝刊 p.2)

また、「一センター」も両語とも共起している。例(3)と(4)のように、「ケアセンター」という表現は今回の調査の中では2類に分けられる。一つは例(3)のように「介護」と同じ意味を持ち、介護老人を対応する施設であり、もう一つは(4)のように老人ではなく、遺児が対象とされる場所である。それに比べ、今回調べた限りでは、「介護」はすべて(5)のように老人や年寄りなどを対象とする場所を示している。

(3) …地区の介護老人保健施設「中部台ケアセンター」で、お年寄りら約百人と交流を深めた。

(7/6 朝刊 p.18)

- (4) 寮は阪神大震災の遺児のケアセンター「神戸レインボーハウス」に併設されており、親を亡くすなどの体験があり、震災遺児の気持ちに寄り添える学生が暮らしている。

(2/28 朝刊 p.28)

- (5) 常滑市古社の介護センター「赤い屋根」で十四日、地域の高齢者と小学生の交流を目的としたもちつき大会があり、約百四十人が参加した。

(1/15 朝刊 p.2)

「ケア」と「介護」は施設名として使われている際に、「高齢者」を対象とするとき重なる部分もあるが、「ケア」は「介護」より使用範囲が広く、「高齢者」以外の「乳幼児」「遺児」などのような人たちも対象としている。

〈制度〉

〈制度〉は「介護」のみが現れている。共起語の「一保険」と「一福祉」を合わせると総数の24%も占め、他の類型より最も多く使われている。語種の面からも「漢語」に集中している。意味は、「保険」も「福祉」も同じく医療的制度やその分野と関係深い。

〈経営〉

「ケア」は「一プラン」との共起が多く、「一サービス」が4回しかなく、「介護」は他のとの共起が少なく、主に「一サービス」と「一代」などとの共起である。今までの分析では両語の共起語は語種の影響が強く出ている。しかし、この「サービス」はそれに反している。この点について下記の例文から分析してみよう。

まず、例(6)の文脈から見ると、この「ケアサービス」は療育を必要とする「児童」「障害児」を預かる施設であるのに対して、(7)の「介護サービス」は「入院患者」を対象に、療養のための医療面で用いる。また、(8)の「介護サービス」の対象は高齢者であることが明らかである。こういった「一サービス」の対象者は主に「患者」「高齢者」のような治療や身体介護が必要な人々であるから、「介護」との共起が「ケア」より多く出現している。

- (6) 障害児が定期的に療育を受ける児童デイサービスや、放課後に障害児を預かるタイムケアサービスも自立支援法に基づくもので、四月から一割負担が始まっている。(6/25 朝刊 p.37)

- (7) ……厚生労働省の入院患者に関する調査で分かった。ただ、家族の協力や介護サービスなど受け入れ態勢が整えば在宅療養はできるとしている。(9/2 朝刊 p.3)

- (8) 高齢者がより高齢化することで、今後も介護サービス需要が増えるのは確実なため、次回改定の〇九年度以降も引き上げが続く見通し。(3/24 朝刊 p.1)

〈職業 / 知識 / 能力〉

「ケア」は「ケアマネジャー」のような職名以外ほぼ使われておらず、「介護」は1254回あり、総数(3766回)のほぼ1/3を占めており、「一主任」「一士」などとの共起が多い。ここも語種の影響が強いと言えよう。ただ「一ヘルパー」「一スタッフ」のような仕事・実際に患者と接触することが多い職名は「介護」との共起が多く見られた(例(9)を参照)。また、(10)の文脈から「介護ヘルパー」は「高齢者を支える人向け」の仕事であり、ここも高齢者が対象者であることがわかる。

- (9) …介護を必要とする認知症の高齢者が少人数で介護スタッフと共同生活をする住宅のこと。

(1/18 夕刊 p.2)

(10) 講座は高齢者向けや介護ヘルパーら高齢者を支える人向け、高齢者見守りボランティア育成で、来年一月三十一日（年末年始を除く）までの間、全国二千百カ所で行う。（10/9 朝刊 p.26）
「一法」「一知識」などとの共起は「介護」の方がよく使われている。また、(11) 以下の例を見ると、同じ「一法」との共起であるが、両語での対象面が異なることがわかる。「ケア」は(11)のように子どもへの体と心のフォローを示しているのに対して、「介護」は(12)のように対象となる「高齢者」が何か危険に陥る場合、その応急処置法を指していることがわかる。

(11) ベビーから幼児期といったお子さんの成長に合わせたケア法を学べます。皮膚への刺激は神経系、脳への伝達となりお子さんの情緒安定にもつながります。 (3/31 朝刊 p.25)

(12) …住民五人が日常生活の救急法や介護法、健康法などを学んだ。受講者たちは、高齢者が転倒、転落した場合、浴槽でおぼれた場合、のどにもちを詰まらせた場合などを想定した応急処置を体験。 (9/21 朝刊 p.16)

以上、「介護」は「介護主任」「介護ヘルパー」のような職名のほか、介護についての医療知識とその能力や学術などとの共起も多く見られた。

〈病状 / 治療〉

この類型では、主に「ケア」が使われている。「終末期」「ホスピス」「排泄」との共起が多く現れている。下記の例(13)の「終末期ケア」を見ると、「心」と「体」の両方のサポートを指しているから、患者の身体的な医療だけではなく、精神面のような内的な治療も含まれていることがわかる。また、(14)と(15)は医療に関係はしても、日常生活における「痰の吸引」「経管栄養」「口腔ケア」のような医療面で補助的なサポートに使用される。

それに比べ、(15)は「終末期介護」の条件が4つある中で、「ケア」はその一つであり、身体の動き以外のサポートをするという意味で用いる。他の3つは医療的なサポート、制度的なことを示している。したがって、具体的な治療においては、精神的な面を含む場合は「ケア」のみ用いられる。「ケア」が「介護」の中に具体的なあり方を指し、「介護」は治療の制度を示すのに用いられるということが言える。(17)(18)の「認知症」との共起も同じように考えられる。

(13) ……、第二部「高齢者の終末期ケア－心と体のサポート」で、まず井形昭弘・日本尊厳死協会理事長（名古屋学芸大学長）が「自己決定と尊厳死」について講演し…… (7/4 朝刊 p.28)

(14) 痰（たん）の吸引や、チューブを通して栄養を取る経管栄養など、日常生活での医療行為（医療的ケア）が増えています。 (6/6 夕刊 p.11)

(15) 園長の時田純氏（78）は終末期介護の条件として (1) 医師、看護師、介護職員らがチームでケアをする (2) 経口で栄養や水分を補給する介護技術 (3) いつでも医師を呼べるサポート体制 (4) 家族が看取りに携われる個室がある－などを挙げる。 (2/12 朝刊 p.3)

(16) 不安なく老いを迎えるための社会づくりについて、同研究所長寿政策科学研究部の荒井由美子部長がアンケートなどを基に研究内容を発表。センター病院の口腔（こうくう）機能再建科の角保徳医長が要介護者に対する口腔ケアの必要性とケアのシステムについて説明した。 (11/12 朝刊 p.24)

(17) 建物内には介護の専門館や健康チェック、認知症ケアなどの部屋が設けられ、来場者が血圧や体脂肪の測定などができる。 (11/5 朝刊 p.20)

- (18) 今年五月には、具体的な症例をもとに基本的な介護の方法を学べる「認知症ケアあなたならどうする」(日総研)を出版した。(9/15 朝刊 p.25)

〈受容者の身体的 / 生活的な面〉

ここでは、「ケア」に広い語種との共起があるものの、「介護」は「—予防 / 予防—」「生活の—」などのような「漢語」としか共起していない。

意味的な面においては、例(19)(20)のように、「ケア」は必ずしも体が不自由な人々をサポートするのではなく、体が理想的な状態に整えられるために、サポートするという意味で捉えられる。「—予防」「予防—」に関しては、「ケア」も「介護」も使われている。文脈を確認すると例(21)の「ケア」は美容関係に関わることに使用されているのに対して、(22)のように「介護予防ケアプラン」の「介護」が医療関係、高齢者に用いられていることがわかる。「ケア」は医療関係にも美容関係も使われているのに比べ、「介護」は医療関係、また、高齢者に使用されている。この点は後の〈美容〉の類型からさらに明確になる。

- (19) ……七年前からボランティアで選手の体のケアや技術指導を行っている。(8/11 朝刊 p.15)
 (20) 前夜も酸素カプセルに1時間入るなど体のケアに努めた。(8/22 朝刊 p.27)
 (21) 抜け毛予防ケアのオプションなども。(5/17 夕刊 p.7)
 (22) 介護予防ケアプランを作成する地域包括支援センターは一日に二十九カ所を設置。さまざまな相談に応じる窓口も置き、高齢者が要介護状態になるのを防ぐ。(4/2 朝刊 p.18)

その上、(23)を見ると、「ケア」は「介護予防」の中の保健師、排泄などの介添えを指していることが分かる。

- (23) 制度改革で介護予防を担う地域包括支援センターの保健師も、排泄ケアの臨床経験、地域での実践、マニュアルも乏しい。(1/9 朝刊 p.14)

〈対象者〉

まず、「ケア」は「子供—」「親—」「妊婦—」など病気ではなく、ある段階になって、健康でも世話が必要な場合に使われている。また、「支援者—」「生徒の—」「選手の—」など体だけではなく心理的な面も必要な場合に使用されていることがわかる。それに対して、「介護」は「親の—」「高齢者—」などとの共起が多く、主に体の動きが不自由な人々と病状がある場合に用いられる。

その内、両語と共起している「家族の—」「親の—」の例を見てみよう。下記の例(24)は、「ケア」が「高機能自閉症」や「軽度発達障害」などのような、診察に加え、家族の精神面のサポートが必要である場合に使われている。また、(25)の文脈から「親のケア」というのは「介護」をとりまく広いサポートを指している。一方、例(26)の「親の介護」「家族の介護」は「高齢者」になるにつれ、体が不自由になった者に対する生活サポートという意味で用いられている。(27)の「家族の介護」というのは病気になった人を支える周囲の環境を指していることが読み取れる。したがって、この「家族のケア」や「家族の介護」も今までの分析における「ケア」は精神的面で、「介護」は高齢者、患者などの療養関係の面で使われているという制約が守られている。

- (24) 知的な遅れのない高機能自閉症などの軽度発達障害児を主に対象としている。「本人の診察に加え、家族のケアも大切」と話すのは杉山登志郎・心療科部長。(4/5 朝刊 p.20)
 (25) 遠くに離れて暮らす親のケアを考える市民団体・パオッコ理事長の著者が、介護に始まりゴ

ミ出しなど日常生活のサポートを、通いながらどう支えるか、会員の体験などをもとにまとめた。 (9/19 朝刊 p.26)

(26) 高齢者問題について学生の意識調査をキャンパスで実施した。親の介護は自分ですという学生が六割に達した…… (9/12 朝刊 p.17)

(27) 求めに応じて往診し、認知症の高齢者が多い。「家へ行けば患者と家族の介護環境に応じて処方できます」。 (9/5 朝刊 p.23)

〈種類〉

〈種類〉には共起語のバリエーションが多い。ここにも語種の制約がかかっていることが言える。全体に見ると、「ケア」は多くの語と共起するのに対して、「介護」は一部の語に集中している。具体的に見ると、「ケア」は「緩和―」「タイム―」などのような「漢語・和語」「カタカナ語」との共起があるのに対して、「介護」は「漢語・和語」との共起しか見られない（「在宅―」「十分な―」）。

さらにそれらの意味を分析すると、まず、下記の例（28）の「緩和ケア」は心と精神のサポートを重視するのに比べ、（29）の「在宅介護」は高齢者の生活サポートをするという医療システムを指していることがわかる。

(28) 緩和ケアを行う病院は、全国に百五十ほどある。心のケアなどによって肉体的・精神的な苦痛を取り除くと、ほとんど何も食べることができなかった患者が、食事を取れるようになる… (8/15 朝刊 p.14)

(29) ホームヘルパー二級の養成講座の授業中だ。修了すると在宅介護が必要な高齢者宅で排せつや入浴の介護をしたり、調理などの生活援助をしたりする職に就く資格を取れる。 (05/19/ 朝刊 p.20)

また、（30）を見ると、「乳幼児期と学童期の継続ケア」は発達障害児へ、長期に、医療面、教育面、一般生活面（保健）に関するサポートを指している。こういった広い意味でのサポートは今回調査の限りでは「介護」の共起語から見られない。

(30) 新宮保健所と新宮市立医療センターが医療、教育、保健の関係組織に呼びかけ、設立にこぎつけた。同問題での広域協議会設立は県内初。[……]会議では、小児科医や小児救急体制の確保乳幼児期と学童期の継続ケア、発達障害児のための社会資源の整備などの課題を検討した。 (2/18/ 朝刊 p.22)

続いて、また同じ欄にあるほかの共起語についてみてみよう。「ユニット―」「個別―」「多機能―」などは「ケア」との共起しか見られない。（31）の「ユニットケア」を見ると、「ケア」は医療制度の中にある標準の規定を指している。一方、「介護」は「軽度な―」「必要な―」などとの共起が多く出現している。（32）はその例である。例文を確認すると、ここの「軽度な介護」は実施する行動の内容より、その行動の外観から見た結果に使用されると思われる。いわゆる社会一般の制度面で用いられているといえる。

(31) 環境と人手で質保つ、3対1の国基準は厳しく、特別養護老人ホームも個室の時代になり、新設は「全個室ユニットケア」しか認められない。[……]父親は特養のユニットケアに入れて「よかったね、ホテルみたいな個室で」と娘は喜び、母親の介護に専念した。入居二週間後、娘は特養へ。父親はのどがまひして「刻み食」のはずが「普通食」だ。若い介護職員が、ご飯にお湯をかけスプーンでつぶして食べさせていた。一カ月後に訪ねると、茶わん蒸しが

硬くスプーンが通らない。「食べてみて」と職員に言うと「あら、硬いわ」でおしまい。

(7/18 朝刊 p.18)

- (32) 「制度改正は軽度な介護で済む人の症状の悪化を防ぐためというが、膨大な介護費を抑えるために、切り捨てている結果になっているのではないか」と…… (9/29 夕刊 p.16)

以上をまとめると、「ケア」は生活と精神のサポート面で用いるのに対して、「介護」は医療に関わる患者、高齢者の生活面へのサポートを中心にし、やり方によって様々な方法に使い、その方法の呼び方が使用されている。

〈設備 / 備品〉

ここは「介護」との共起しか見られない。医療サポートを中心とし、及び生活サポートに関わるような品物は殆ど「介護」が用いられる。例えば「一ベッド」のようなカタカナ語であっても、(33)のように「介護」との共起だけ見られた。〈設備 / 備品〉などのような療養に関わる身体のサポートに使われるものであり、語種に関わらず「カタカナ語」との共起でも「介護」が使われている。

- (33) ……要介護1以下の人は、原則として十月以降、介護ベッドや車いすを借りられない。

(9/17 朝刊 p.9)

表1 「ケア」と「介護」の直前直後共起語

調査語	ケア	介護	類型
直前直後共起語の総数	1025	3264	
一ハウス、一ホーム、一タウン etc	75		場所
一センター	15	11	
一施設	2	163	
一保険、一保険係長、一保険法 etc		740	制度
一福祉、一福祉課、一福祉士、一福祉労働 etc		177	
一サービス	4	113	経営
一代、一報酬、一貯金、一財源、一費、一費用 etc		81	
一プラン	33	1	
一ビジネス、一市場	3	5	
一マネジャー、一マネ	85		職業 / 知識 / 能力
一法、一システム、一知識、一研究、一研修 一認定、一講座 etc	5	229	
一活動、一能勢、一状態	3	15	
一質、一改善、一問題、一方法	3	11	
一ドライバー	2		
一の仕事、一(の)現場、一の担い手、一辞職		158	
一者		132	
一主任、一係長、一ヘルパー、一スタッフ、一士、一員 etc		102	
医療的一、一医療、一課	31	34	病状 / 治療
口腔一、口(の)一、口内(の)一、歯(の)一	26		
終末期一、終末一	20	7	
排泄一	19		
ホスピス一、ウェルス一、プレスト一、プライマリー	19		
認知症一、脳卒中一	14	13	
スピリチュアル一	11		
ターミナル一	9		
生老病死(の)一	2		
一度、一(1、2、3……)		84	
一体験、一相談、一経験、一集会		42	
体(の)一	16		受容者身体的 / 生活的な面
一予防一、一予防、一防止	5	238	
生活の一、食の一、入浴の一、etc	6	12	
ライフ一	4		
トータル一	2		

子供(の)ー、チャイルドー、ベビーー	19		対象者	
親のー、ファミリーー、家族のー	15	67		
妊婦のー、産後のー、出産時のー、	7	1		
支援者(の)(3)ー、被害者(の)(4)ー選手(の)(2)ー、部員の(2)ー	7			
生徒のー	6			
ーリングクラウン	4			
遺族(の)ー	4			
ー家族		17		
高齢(者/の)ー、ー高齢者、老老ー、シルバーー etc		176		
緩和ー	140			種類
タイムー、ディー、	45			
ユニットー、ユニークなー	28			
在宅ー、地域ー、施設ー、住宅(の)ー	23	64		
個別ー、近隣ー	9			
軽度なー、十分なー、必要なー、ー必要、全体的なー	8	48		
セルフー	6			
適切なー、適正ー	6	1		
ナチュラルー、手厚ー、質の高いー、良いー、	4	4		
多機能ー、	5			
昼のー、2時間ー、24時間ー、通所ー、日帰りーetc	3	43		
継続ー	2			
普通のー	1			
訪問ー、看取りー		73		
ー計画、		9		
ー器具、ーベッド、ー専用風呂、ー食器 etc		135	設備 / 食品	
ー食		15		
心(の)ー	108		心理的 / 精神的	
グリーフー、悲嘆ー	27			
精神ー、精神的(な)ー、心理的(な)ー etc	26			
ミュージックー、メンタルー、	8			
ナーシングー、ハートー、ハートフルー、ヒューマンー	7			
虐待ー、暴力のー	2			
尊重のー、理想のー	2	1		
会話中心のー	1			
コミュニティー	1			
ヘアー、ネイルー、スキンー	62			美容
顔のー、紫外線ー、肌のーetc	14			
フットー	4			
ーハラ	3		実施する側の状況	
ーの提供、ーの日、ーの道、ーの現状ー支援 etc		139		
ーの疲れ、ーの重要、ーの難しさ、ー負担 etc		31		
ー日記、ー日誌、ー生活、ー記録 etc		18		
ー関係、ー関連		17		
ー力、ー功労者 etc		9		
ー難民		7		
ー休暇、ー休業		7		
ーうつ		5		
ーフェア		5		
ーボランティア		4		

〈心理的〉 / 〈美容〉

ここでは、〈心理的〉の分野は明らかに「ケア」が主に使われている。今までの各類型の分析の中にも触れたように「ケア」は「介護」と同じ共起語を持っているときでも、「介護」と違い、生活面でサポートするだけでなく、心理的な支えの意味もある。また、〈美容〉を見ると、美容に関わる物事はすべて「ケア」が使用されていることがわかる。

この2つの欄から「ケア」は心理的、精神的な面で、美容面のような細かなサポートに適用されている使用傾向がさらに浮かび上がる。

〈実施する側の情報〉

ここの共起語は主に「介護」が多い。「ケア」との共起は3回しかなく、例(34)のように、「一

ハラ」である（比較的、近年から使われるようになった「ハラスメント」の短縮語）。一方、「介護」は（35）（36）に見られる「一の提供」や「一の疲れ」などとの共起から見ると、生活が不自由な人々に対してサポートするのが主であると思われる。また、明示していないがその対象は主として高齢者である。その上、（36）の〈～があれば…介護の疲れも感じない〉というような例から、「介護」は実施する側にとって一般には大変な、重い仕事を意味することが推測できる。

（34）…介護従事者の人権や職域を侵害する「ケア・ハラスメント」（ケアハラ）の実態を探る…

（2/14 朝刊 p.3）

（35）また、日常サービスも （1）食事の提供 （2）介護の提供 （3）洗濯・掃除など家事…

（7/25 朝刊 p.29）

（36）「共通の楽しみがあれば心が豊かになり、介護の疲れも感じない」と吉兼さん。

（5/30 朝刊 p.16）

以上、〈直前直後共起語〉から「ケア」と「介護」の意味フレームが次のようにまとめられる。語種の面においては、「ケア」は「カタカナ語」「漢語・和語」との共起ができる。それに対して「介護」は「漢語・和語」との共起が主に見られる。意味については、「ケア」は医療的な面と精神的な面、美容面で用いられ、「介護」は医療的な面にのみ使用される。また、医療面では「ケア」は高齢者、患者を含む人々の精神などのような内面的な、医療面の補助的な治療法に使われ、「介護」は治療自体ではない外側からの、主に高齢者や動きが不自由の患者などへの生活のサポート及び医療の制度に使われていることがいえる。

4.2 文中共起語についての意味分析

本節から表2に従い、「ケア」「介護」の〈文中共起語〉を考察する。まず、全体に共起語を類型によって、〈場所〉〈職業/知識/能力〉〈対象者〉〈心理的〉などの6類型に分けた。

結論的に言えば〈文中共起語〉においても、前節の表1の〈直前直後共起語〉から得られた結果とほぼ同じである。例えば〈場所〉面は両語とも使われ、〈職業/知識/能力〉、〈受容者の身体的/生活的な面〉〈実施する側の状況〉においてはやはり「介護」との共起が多く現れている。文脈を確認したところ、以上の制約が守られている。

表2 「ケア」と「介護」の文中共起語

調査語	ケア	介護	類型
文中共起語の総数	64	502	
施設、	39	27	場所
専門、知識、学ぶ		31	職業/知識/能力
看護	1		
患者、障害者、ガン、	14	1	対象者
妊婦、育児、児童	4	64	
愛犬	1	6	
家族	1	1	
高齢者、医療、年金、福祉etc		172	
精神面	1		心理的
健康、理解		27	
物、食	1	12	受容者の身体的/生活的な面
マッサージ	1		
～が必要		47	
～を通して、～をめぐる		7	
～を受ける		12	
入浴、生活	1	2	実施する側の状況
～を負担する、～に悩む、～で疲れるetc		93	

ここでは表1と異なる部分だけを取り上げ、詳しく見ておく。〈対象者〉の「妊婦、育児」などとの共起が〈直前直後共起語〉との結果が異なるのが問題になりそうである。表1では、「介護」の対象者が高齢者や病人のみであった。ここでは、「妊婦、育児」も現れた。しかし、例文を見ると、表1の検討と同じ視点で得られるものではないことが分かる。下記の(37)「家事」、(38)の「子育て」は「介護」と並列し、それらは「介護」の対象者ではないことが明らかである。

(37) …四十-六十五歳の男性が家事や育児、介護などを学ぶ「男塾」を開講する。

(4/14 朝刊 p.21)

(38) 子育てや介護などのための時間を確保し、会社での労働時間は短くしながら正社員……

(6/5 朝刊 p.24)

また、表1の〈直前直後共起語〉から得られた結果は「ケア」が心理的な面で使用されることであったが、表2では表面上は逆の結果が得られたように見られる。実は、(39)を見ると〈介護への心構え〉というのは、介護を受ける人の心を支えるのではなく、介護を実施する側への心の支えのことを指しているため、矛盾はない。

(39) 将来の介護への心構えができた-など意識の変化もみられる。

(10/20 朝刊 p.26)

〈対象者〉の欄では「犬、愛犬」などとの共起も見られた。「介護」の対象者は主に病人や高齢者のような行動が不自由な者であり、動物もそこに入ることが確認できる。上記の〈文中共起語〉の分析を見ると、4.1節で得られた結果とほぼ一致していることが分かる。

5. 終わりに

以上、「中日新聞」に基づき、「ケア」と「介護」の意味相違を考察した。その分析結果をまとめると、下記のようなことが言える。a) ~ d) と a) ' ~ d) ' は「ケア」と「介護」の意味は対比的であり、e) f) と g) h) は両語のそれぞれが持っている意味を表す。

「ケア」

- a) 「カタカナ語」「和語」「漢語」とも共起している。例えば、「一ハウス」「体(の)一」「終末一」のような語である。
- b) 施設名として使われる際に、施設の中に所属対象は高齢者だけではなく、生活サポートを必要とする人達(子ども、遺児など)でもある。
- c) 医療面で使われると医療制度の中に補助的な治療に使われている。「排泄一」「口腔ケア」などのような使用例がある。
- d) 主に対象者(患者)の心理的、精神的なサポートをするものである。また、比較的新しい治療法である場合に用いる。例えば、「ホスピス一」「ターミナル一」のようなものである。
- e) 患者以外の人々の心理的サポートにも用いられている。「選手の一」「生徒の一」のような例である。
- f) 美容面のような日常の細かな面で用いる。「ヘア一」「顔一」

「介護」

- a) ' 主に「和語」「漢語」と共起している。「カタカナ語」との共起もあるが限られた語しか用いられない。「一センター」「一サービス」などのような語である。

- b) 場所と共に起る時、その場所の所属対象者は主に高齢者である。
 c) 治療面から考えると、医療制度、組織の中の総括的な面に使用されていると言える。また、専門知識の場合と医療を伴う生活のサポートに用いられる。
 d) 主に対象者の身体的なサポートをするものである。
 g) サポートを実施する側にとって体も心も重いことであると考えられる。例えば「一うつ」「一負担」などのような例である。
 h) 用品名、食品名に関しては「介護」が用いられている。新しく輸入したものでも元からあるものでもすべて「介護」が使用されている傾向がある。「一食器」「一ベッド」
- 以上の分析をまとめたのが、表3である。

表3 「ケア」と「介護」の使用分野の共起の特徴

調査語	語種			制度	学術	サポート			対象者			実施側
	カタカナ語	和語	漢語			外側	内側・繊細	心理・精神	高齢者	病人	それ以外	
ケア	○	○	○	×	△	△	○	○	○	○	○	×
介護	△	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○

中心 ←————→ 周辺

○→共起しやすい △→共起するが、少ない ×→共起しない

6. 今後の課題

今回の調査では新聞に基づき、「ケア」と「介護」の書き言葉におけるそれぞれの意味フレームを明らかにした。ただ、主に新聞のデータで得られた結果は、書き言葉としての一般性があるものと考えられよう。ただ近年では多分野からデータを集めた「現代書き言葉均衡コーパス」もあり、これとの検証も試みたい。また、両語の意味フレームを明らかにするためには話し言葉の調査も重要である。

全体的に大きな課題としては多くのカタカナ語を含む類義語の調査を続け、全体的な関連性があるかどうかを検討することである。

注

- 1) カタカナ語の定義は様々である。『新編日本語教育』(2005)では、「室町時代末期以降、主として欧米言語から日本語に入ってきた語のことを外来語というが、欧米諸言語がその大半を占めることから、洋語とも、また、カタカナ語で表記することからカタカナ語とも呼ぶことが多い」と記載している。本稿はカタカナ語をこうした意味で使用する。
- 2) 陳曉静「類義語として併用されるカタカナ語・和語・漢語の意味相違の考察」『言語と言語教育めぐって』第4巻 2010年度立命館大学大学院言語教育情報研究科院生論文集 pp.167-196に述べた。
- 3) 『中日新聞』2006年分のデータを立命館大学大学院言語教育情報研究科研究生の田中良氏により開発された多言語コンコーダンサー(HASHI)にかけ、得られた結果を利用した。
- 4) 相澤正夫(2012)によれば「『外来語』言い換え提案」というのは、2002年から2006年にかけて、国語研究所「外来語」委員会が公共性の高い場面におけるわかりにくい外来語使用の問題に対象を絞り、わかりやすくするための具体的な方策を類型化して出したものである」と述べている。
- 5) 『現代雑誌200万字言語調査語彙表』は、2001年～2005年に実施し、国立国語研究所200万字分の本文を調査対象とし、分野と発行部数を考慮して選出した1994年の月刊雑誌70誌において、どのような語彙

がどのくらい使用されるのかという実態を計量的に明らかにすることにより、現代日本の語彙の実態の一面を把握することを目的とした記述を行うものである

6) 調査語が出現する文脈の前後が同じである場合は頻度数を1回と数える。

7) 4節の例(1)から例(38)まですべて中日新聞2006年度の例であるため(月/日朝/夕刊ページ)で掲載する。

参考文献

石綿敏雄(2001)『外来語の総合的研究』東京堂出版

鳥飼久美子(2007)「カタカナ語に見る意味のずれ」『言語』36(6)号, pp.52-59

松本曜(2003)『認知意味論』大修館書店

彭飛(2003)『外国人を悩ませる日本語からみた日本語の特徴』凡人社

相澤正夫(2012)「『外来語』言い換え提案」とは何であったか『外来語研究の新展開』おうふう

『日本国語大辞典』第2版 小学館

『ロングマン英英辞典』第5版 桐原書店

(本学大学院博士後期課程)